

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々職員は笑顔で接したり利用者の希望や思いがかなえられるよう支援し、利用者が「笑顔・満足」で日々過ごせるよう心がけている。	事業所は、開設時からの介護理念である「笑顔」「満足」「まごころ」を日々のケアの指針として大切にしている。新人職員研修時や職員会議において理念の共有を図り、利用者の「笑顔・満足」に繋がるよう、日々のサービス提供に努めている。	理念は事業所が目指すサービスの在り方を示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方である。理念について全職員で掘り下げて話し合う機会を持ち、その理念を共有した上で具体的なケアについて意見の統一を図り、実践につなげていくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ感染防止のため、祭り、神輿、地域との交流会など行事の中止が多かった。地域の方々から庭の草取りボランティアに来ていただき、コロナが収束したらお茶会ができるね、と話がありました。	感染症予防の観点から地域との交流の機会が制限されている状況にある中、地域住民から庭の草取りボランティアに来ていただいている。事業所は防災訓練の際に近隣住民に配慮し、事前に文書の配布を行っている。事業所は極自然に地域住民と双方向の交流が成され、地域の一員として定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	残念ながら地域に向けて事業所からの発信はできなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染防止対策として今年度も書面による会議開催となった。委員の方からは助言、励ましの言葉を都度頂き、対応に生かしたり、委員の方にも報告させてもらっている。	運営推進会議は、感染症防止対策から書面での開催となっている。会議の構成メンバーには事前に書面で意見や要望をいただき、事業所からは利用者の生活の様子やサービス状況について書面にて報告を行っている。	運営推進会議は業所からの報告や情報提供にとどまらず、構成メンバーから意見要望を受け、双方向的な会議となることが重要である。また、運営推進会議での検討内容は、会議の構成メンバー以外にも地域住民や利用者・家族等に広く周知され、地域の理解と支援を得るためにも積極的に働きかけていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面会議のため、報告が多くなりがちであったがご意見もいただきました。。	市の担当者とは、運営推進会議の会議録を提出する他、介護事故発生時には報告書を持参し説明を行っている。市からは感染症対応等について、メールで情報提供や注意喚起をいただく等、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、指針の周知や身体拘束をしないケアを可能な限り取り組んでいる。3か月に1回の代表者会議で検討したことが他の職員にも周知し、日々のケアに生かせるようにしている。		
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に当たるようなことは何か、折にふれ、確認したり、必要な改善点などは話し合い、改善に努めている。	介護理念に利用者・家族の尊厳と権利を守ることを掲げており、職員研修を実施し不適切ケアや虐待防止について学び、職員周知を図っている。また、毎月の職員会議の中で、日々のケアでの不適切な言葉掛けや虐待にあたる対応が行われていないかを確認し合う機会を持ち、虐待が見過ごされないよう全職員で取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の自立支援事業を活用させてもらいながら支援員の訪問を楽しみにしている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明・理解を図るように努めている。改定時には、説明文書や同意書を得ている。特に看取りについても開始時だけでなく、契約時にも説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日ごろの職員との会話からも聞き逃さず、事業所内の行事などに取り込んだりする。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き取るよう努め、家族等からはケアプラン更新時や電話連絡、面会の際に利用者の暮らしぶりを伝えるとともに、意見や要望を把握するよう努めている。確認できた意見や要望は職員会議で共有し運営に反映させている。コロナ禍により、遠方の家族からリモートで面会の希望があり、実現に向けた検討を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の職員会議の後、2つの事業所代表者が集まり、職員の意見や提案を聞いてもらう機会や現状の問題点や工夫を話し合ったりしている。運営に関して意見を言う機会がコロナの為、減ってはいるが報告はある。	毎月20日を会議の日とし、職員会議、経営会議、運営会議が開催され、代表者や管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。職員からの朝食準備についての業務省力化の提案を受け、検討を重ねながら業務改善を実現している。事業所は職員意見を反映し、働きやすい職場環境の整備に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も毎月会議を兼ね各事業所内の報告をしている。 職員には個々に資格取得に向けて声掛けをしたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染防止のため研修も少なかった。参加した際は受講報告書や資料などで職員が情報共有できるようにはしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染防止のため、交流会などの活動は見られなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族などから様子や状態を伺い、サービス導入に不安・心配を受け止め、安心につながられるよう、関係づくりをしている。またいつでも聞ける体制ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況や様子を聞いたり、家族等の苦労や不安、要望などを伺ったりして信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望、要望、不安や心配なども伺いながら、そのために必要な支援や、できる支援やサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることやれることを探し、発見できたことは共有し、その人を深く知る手立てとしている。得意なこと、生き生きとする場面作りを大切にしたいが意欲に中々つながず。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ぶなの里通信で写真やコメント記入したり、電話などで報告や家族と話したりしてもらっている。	利用者の活動時の写真や日常の様子を掲載した広報誌「ぶなの里通信」を、3ヶ月毎に家族に送付する他、体調の変化や受診結果等について細かく電話連絡を行い、家族と情報の共有に努めている。感染症予防の観点から面会が制限されている中、家族との絆が途切れないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止の中、電話やガラス越しの面会などでつながりを継続している。	感染症予防の観点から、ガラス越しの面会やドライブ外出を実施する他、家族や馴染みの人と電話で話す機会を作り馴染みの関係が継続できるよう支援している。唯一、地域の理容師の来所があり、利用者は何気ない会話を楽しみながら、馴染みの人との交流が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の性格や思い、状況をとらえ、悪化しないよう、またはその場面を大切にしながら、職員が周囲の様子を見ながら支援するよう努めている。特に利用者の相性などがあるため食席に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者には、本人様の情報をできるだけ詳しく伝えたり、その後の様子についても聞かせてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向確認ができない方が増えてきているため、関わりを持ち少しの気づきから意向に沿えるよう努力している。	日常の関わりの中での様子や何気ない会話の中から、暮らし方についての希望や意向の把握に努めている。本人が喜んだことなどをケース記録に記載し、職員間で共有し日々のケアにつなげている。把握が困難な場合は家族等から情報を得て、その人らしく暮らし続けられるよう支援に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報から読み取っているが状態変化により、なじみの暮らし方、生活への思いなど聞く手立てが少なくなってきたので難しい。	入居前の面談で、本人・家族から生活歴や馴染みの暮らし方について聞き取り把握する他、居宅時の介護支援専門員や前事業所からも情報収集を行っている。把握した情報は「入居者個人情報」に記載し、職員間で共有を図りながら馴染みの暮らし方に近づけるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場の職員から意見をもらい、その人のできる力を理解し、それを役割としたり、継続的にできるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、本人の思いや家族の意向を聞きながら、状態変化にも見直しやモニタリングを行い、よりよいケアに結び付けられるよう職員全体でしている。	日頃のかかわりの中で本人の意向や思いをゆっくりと聴き出す時間を取っている。家族等とは面会時や電話対応時に声を掛けて意向や思いを聴き取っている。サービス担当者会議は事前に本人・家族等から聴き取った満足度、評価などを基に計画担当者と関係職員等が参加し、個々に合わせた具体的な支援を盛り込みながら、ニーズを踏まえ本人の思いを反映させる介護計画を作成している。アセスメントを含め、全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体で連絡ノートを活用し、関わった職員が記録に適宜記入し、一人一人の情報を、変化のあった時はすぐに見直し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族等の思いに柔軟に、また状況に応じて通院、送迎等対応している。必要な物なども家族ができないときは代行したりしてその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の区長、民生委員、介護保険係、地域包括の職員の方から意見をもらっている。今年度も感染防止対策の為、書面開催とし、安全な暮らしが出来ようコロナ収束の願いが聞かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している	事業所の協力医のほかの受診など、ご家族 と協力している。	入居時に利用者・家族等は事業所の協力医 の説明を受け、ほとんどの利用者が協力医 療機関となっている。本人・家族等の希望を 大切に、以前からのかかりつけ医との関係 を継続している利用者もおられ、適切な医療 を受けられるよう情報のやり取りや受診の結 果に関する情報の共有に努めている。協力 医療機関と訪問看護師と連携が取れており、 日常の健康管理や緊急時においても安心の 24時間対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切 な受診や看護を受けられるように支援してい る	週1回の定期的訪問看護による健康管理、 医療面での相談・対応などを行っています。 24時間訪問看護と連絡がとり合える体制に あり、体調変化の報告を行い医療につなげ てもらうことがスムーズである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。あるいは、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡会議にも出席してもらい、関 係作りに努めている。入院時には病院の地 域連携室や担当看護師とこまめな情報交換 や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを を行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や看取りについて、事業 所指針を用いて、本人、家族等からの意向 確認している。状態変化を家族に報告、主 治医の指示により受診し、本人に合わせた 対応をしている。訪看にも状態報告を行って いる。	入居時の契約時点で重度化した場合や終末 期の在り方については、本人・家族等へ説明 し意向確認をしている。重要事項説明書は別 紙を添付して段階を追う具体例を示しながら 説明している。事業所が対応し得る最大のケ アについても説明し、他の利用者への影響も 踏まえ、対応を検討しながらチームで支援し 取り組んでいる。状態変化に合わせた段階 的な説明を重ね、協力医・訪問看護とも情報 を共有しながら、安心した最後を看取れるよ う取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の様子観察し、異常時に対応できるように努めている。	事業所の入り口にはAEDの設置があり、急変や事故発生時のマニュアルが整備されており、職員の見やすい場所に設置してある。コロナ禍以前は消防署職員によるAED・救急講習を受講している。24時間対応の訪問看護師とは緊急連絡が可能なため、初期対応の的確な指示が受け取れ応急処置ができるようになっている。	救急車が到着するまでの応急処置や初期対応の訓練をケース別の想定をしながら、勉強会や話し合いを全職員で定期的に繰り返して行うことで、いざという時や夜間帯の一人の時に不安なく対処できる実践力が求められる。例えば、訪問看護師から初期対応の的確な指示が受けられるとしても、今後は慌てず冷静な応急処置ができるよう定期的な訓練を繰り返し、実践力を身に付けられるよう期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月1回の自主消防訓練を実施し消防署へ届け出ている。	昼夜想定火災自主消防訓練を2ヶ月に1回、消防署や近隣住民へ避難訓練の日時を知らせて行っている。地震対策のガスボンベや食料・飲み水等の備蓄品等はリスト化して消費期限を管理し把握もできている。地域住民との連携部分は協力体制ともに今後の課題と管理者は認識できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲への配慮や本人の気持ちを大切にしながら対応を心がけている。	援助が必要な時や排泄の声掛けでも、本人の気持ちを大切に考えて、目立たずさりげないケアを心掛けている。反応が乏しい方へは、まず気を引き付けて自己決定しやすい言葉かけに努めている。本人を傷つけないよう言葉かけや対応は、管理者や職員同士で日常的な確認と改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の力に応じた言葉かけにより、自己決定や意見が言えるような働きかけを気にかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、柔軟に参加してもらっている。自分のペースで過ごせる人もあれば、そうでない人もいるので、様子を見ながら誘いかけや希望を聞いてみたりしてやりたいことに取り組めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服を選んできてもらっている。起床時には髪型を整えるよう気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に味付けや調理法を聞いたりしながら職員が調理している。おしぼりたたみをお願いしている。食事のセッティングは職員、下膳はできる方にはお願いしている。	食材は旬のものを取り入れた手作りを基本とし、利用者からメニューの調理法や味付けを教えてもらいながら仕上げの味見をお願いするなど、食欲を高めて食事への関心を引き起こすための工夫をしている。お膳に添えられるおしぼりをたたむ作業や下膳等できる範囲で利用者の持つ力を発揮できるよう、食事を1日の大切な活動のひとつとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	申し送りなどではその日の体調など情報共有して、次の食事につなげている。水分摂取には特に気をつけOSIを作り、不調時に飲んでもらっている。水分不足の方にはこまめに、あるいは本人の飲めるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけや見守り、またはできない方への手伝いなど、把握し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせたパットの種類や誘導の仕方に配慮している。リハビリパンツから綿パンツ(少量パット)に移行した方もいる。失敗してもさり気なく、済ませられるように対応している。排泄時の一連の行動にできる部分を職員で情報共有している。	排泄は利用者の様子から敏感に察知したり、一人ひとりのタイミングを見計らって、個別の排泄支援を行っている。排泄の失敗が見られた場合は自尊心に配慮して、さりげなく交換や更衣等を済ませられるよう心掛けている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討し、情報共有をして紙パンツから綿パンツの下着へ移行された方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、果物・乳製品・水分補給など摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯など季節の湯でも楽しんでもらっている。本人の希望に沿って入浴方法や安心して入浴が出来るような対応をしている。	入浴は週3回、五月の菖蒲湯やゆず湯など、好みの入浴剤を使用して湯船を楽しめるよう工夫している。本人希望の石鹸やシャンプーを使用し、着替えの衣類は本人と共に選んで準備している。入浴の拒否がある方は無理せず、本人の気分やタイミングを見図ったり、お気に入りの猫の写真をたどりながら誘導できるよう、個々に寄り添った支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや習慣で安心して休息・午睡してもらえるようにしている。午睡時の明るさや室温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース内に服薬に関する説明書をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬支援は、飲み込みまで確認するようにしているが溶けにくいものや拒薬する方には情報共有し主治医に相談したりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先の作業や、たたみ物など、その人の力が発揮されるような仕事をお願いしている。職員も参加し、会話したりしている。ねぎらいの言葉がけを忘れないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策にて外出支援などできなかった。車でドライブが数少ないができた。地域の方がボランティアで花壇の草取りに来てくれたのをリビングから見たりしていた。	感染対策のため以前のような外出支援はできていないが、少人数で自宅方面等の希望に添ったドライブへ出かけて気分転換を図っている。季節の花々や山並みの季節の景色を楽しみながら、外気浴を兼ねて施設周りの散歩に出かけている。家族と受診へ行かれた時に自宅へ立ち寄り、家族と食事をしたり安心したひと時を過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染予防にて、買い物代行させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届き、お礼の電話をかけた、家族や親せきとやりとりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染防止の観点から職員それぞれが換気、温度、湿度には配慮し、こまめに確認し気にかけている。	感染対策のための換気・室温・湿度に配慮し、利用者が居室内に不在の場合は居室ドアを必ず開け、こまめな換気を心掛けている。共有空間の床掃除は入居者と職員で協力し合い、清潔感のある環境を心掛けている。共有スペースには季節に合わせた手づくり作品が飾られ、居心地の良い居場所が提供されている。自分の居室へ間違いなく誘導するため、個々の視線の高さに合わせた名札やお気に入りの写真等の工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の思いを職員が汲み取れるよう配慮している。入居者それぞれ落ち着く場所のある方もいるため確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお部屋という安心感を持って頂き、家族や親せきの方々の写真や自分好みの動物や花などの絵や写真など飾っている。	各居室にはベッド・洗面台・整理タンス・冷暖房エアコンが設置されており、テレビや使い慣れた寝具等、自宅より自分のお気に入りの物品を家族と相談しながら持ち込んでいられる。壁や整理タンスの上には家族との写真やお花、思い出の物が飾られている。すっきりと整理されたお部屋の方もいられ、人それぞれに馴染みの物を持ち込んだりと居心地のよさに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の分かる力と、できる力を把握し、家族に相談したりして都度整えたり必要な物をそろえたりしている。混乱が生じた時には、丁寧に繰り返し説明したり、何が原因なのかを探り、相談し、手立てを考えたりして少しでも安心できるようにして。		